

アイルランドにおけるフットボールの歴史に関する研究①

－1879/80シーズンの IRFU 加盟クラブの対外試合の実施状況について－

榎 本 雅 之

1. はじめに

サッカーやラグビーといった代表的な近代フットボールは、19世紀に英国（グレートブリテン王国およびアイルランド連合王国）の一地域イングランドで誕生した。¹ これまで、イングランド各地の町や村で、独自のルールで行われていた民俗フットボールは、全国的な統括組織であるフットボール協会（Football Association；1863年設立）やラグビー・フットボール連盟（Rugby Football Union；1871年設立）により、ルールの統一が行われた。イングランドで誕生した2つの近代フットボールは、それをプレーしていた人々によって、スコットランドやウェールズ、アイルランドに持ち込まれ、英国の植民地の拡大とともに世界に伝播した。²

アイルランドでは、英国パブリックスクールの出身者によって、1854年、ダブリンのトリニティカレッジでラグビー校式のフットボール（以下、ラグビー）を行うクラブが組織される。その後、トリニティカレッジの出身者を中心に、アイルランド各地にラグビーが広められた。1879年には、ラグビーを統括する組織アイルランド・ラグビー・フットボール連盟（Irish Rugby Football Union；以下、IRFU）が設立される。対して、アソシエーション式のフットボール（以下、サッカー）は、1878年にベルファストで初めて行われ、1880年に統括組織アイルランド・サッカー協会（Irish Football Association；以下、IFA）が設立される。³ このように、全国的な統括組織の設立はほぼ同時期であるものの、アイルランドでは、まずラグビーが伝わり、続いてサッカーが行われるようになった。

アイルランドの19世紀後半における代表的なフットボール史研究は、ラグビーの組織や運営について述べた Esbeck⁴や近代的なサッカー、ラグビー、GAA スポーツを概観した Garnham⁵らの研究がある。これらの先行研究では、組織的な変遷や国際試合などの重要な試合について詳細に叙述しているものの、そのスポーツ活動の実施状況についてはほとんど述べられていない。また、Garnham は、1880年に IRFU の最初の幹事（Honorary Secretary）R. M. Peter によって書かれた *Irish Football Annual* を復刻しているが、この史料の詳細な分析は行っていない。

以上のように、先行研究では、組織的な変遷や重要な試合に関する叙述に留まり、スポーツ活動の実施状況の分析は行われてこなかった。しかし、この課題を明らかにすることは、アイルランドにおける近代フットボールの伝播の過程を明らかにする点で一定の意義をも

つと考える。したがって、本研究は、アイルランドで最初の全国的な近代フットボール組織 IRFU が設立された1880年に着目し、シーズン終了時に発行された *Irish Football Annual* から、スポーツ活動の実施状況を明らかにする。その中でも特に、スポーツ活動の対外試合（ゲーム）の実施状況に焦点をあて、分析を進めていく。このことにより、スポーツ活動の実施状況の一端を明らかにすることができよう。

2. 研究の方法と史料 *Irish Football Annual* について

本研究では、まず、IRFU が設立（1880）されるまでのアイルランドにおける近代フットボールが伝播する過程について、Esbeck や Garnham らの先行研究から整理する。次に、*Irish Football Annual* に寄せられた各クラブの報告から、対外試合の日程、対戦相手・場所について明らかにし、アイルランドで近代フットボールが定着する過程について論じる。そのために、IRFU 加盟クラブの分布（①クラブの分布）を整理し、日程（②対外試合が行われた日程）と対戦相手・場所（③カウンティ外に出ての対外試合について）について明らかにする。さらに、それらを補足するために、各事例（④各クラブからの対戦報告）について整理し、IRFU の最初のシーズンの活動について考察を加え、近代フットボールの定着する過程を明らかにする。史料には、サッカークラブに関する記載も若干みられる。しかし、アイルランドにおけるサッカーの統一組織の設立は、史料の出版より後であることから、本研究では、ラグビーの活動を中心に分析をすすめる。

本研究では、Garnham によって復刻された *Irish Football Annual*⁶を史料として用いる。原本は、IRFU の幹事長である R. M. Peter によって1880年に出版された。Peter が各クラブの幹事長に依頼文を送付し、その報告をまとめたものである。Peter が各クラブに要求したことは、1) クラブの名称、2) グラウンド、3) 色、4) 幹事長の名前と住所、5) 会計の名前、6) 執行部の名前、7) シーズンの報告、8) 試合結果、9) 主要な選手（名前とイニシャルと特徴的なプレースタイル）の9項目である。いくつかのクラブからの返信がなかったことを序論で述べている。⁷ 本研究では、対外試合の実施状況を明らかにすることを意図していることから、特に史料の「フットボールクラブの所在地と幹事名簿（List of Football Clubs, with Names and Addresses of Hon. Secretaries）」、「昨シーズンの報告（Irish Football Clubs, with Names of Officers and Reports of the Past Season）」、「昨シーズンの試合結果（Diary of Matches Played during the Past Season）」を分析する。「フットボールクラブの所在地と幹事名簿」には77クラブからの報告が掲載され、11クラブからの報告がなかったことが記載されている。このことから、IRFU に加盟していたのは、88クラブだったと推測できる。「昨シーズンの報告」には44クラブからの、「昨シーズンの試合結果」には55クラブからの報告がある。

3. アイルランドにおける近代フットボールの流入について

○ラグビー・フットボール

アイルランドで最初の英国パブリックスクール式のフットボールクラブは、ラグビー校やチェルテナム校の卒業生によって、1854年、ダブリンのトリニティカレッジで組織された。⁸ このクラブの最初の公的な記録は、1855年12月1日の *Daily Express* 紙に、以下のように掲載されている。

FOOTBALL — クラブのこれまでのメンバーと新入生の間で、カレッジパーク (College Park) で試合を行う。試合はカレッジタイム⁹で2時から開始する。(West, p. 12)

このように、クラブのメンバーは、対戦相手がなかったため、これまでのメンバーと新入生のメンバー、他には、出身カウンティや学んでいる場所、名前のアルファベットなどでチームを分け、クラブ内で試合を行った。また、フットボールクラブ対ボートクラブのように学内のフットボール以外のクラブともゲームを行っている。設立後5年間は、トリニティカレッジを出ての対外試合の記録はみられない。¹⁰

1860年代になると、トリニティカレッジの卒業生によって新たなクラブが設立され、学外のクラブと試合が行われるようになる。その最も代表的なクラブは「Wanderers」であるが、クラブに所属するほとんどの選手はトリニティカレッジの出身者だった。¹¹ 公式に残っている最も古い記録は1860年11月27日 *Dublin Evening Packet* 紙に以下のように掲載されたものである。

大学フットボールクラブ (University Football Club)。天候が良ければ、12月1日の次の土曜に、前述のクラブと「Wanderers」の試合をカレッジパークで、カレッジタイム2時から開始する。

Hon. Secretary, Anthony Traill からの依頼にて。(West, p. 13)¹²

また、トリニティカレッジ出身者以外でも、英国のパブリックスクールで教育を受けた人々がアイルランドに来る事によって、緩やかにフットボールは普及していく。¹³ その過程は、新たにフットボールクラブが結成されたほか、既存のクリケットクラブが冬のスポーツとしてフットボールを行ったところもある。

この当時、行われていたフットボールは、ルールが定まっていないという問題があった。1865-66年トリニティカレッジクラブの幹事長をしていた R. M. Wall¹⁴は、「クラブには、ルールが全くなかった。ゲームには、タッチラインもゴールラインもなく、ただラグビーのゴールポストを目指して、ボールを持って走るだけだった。ラグビー校の出身者は新たなルールの概念を持ち込んだが、彼らでさえ、成文化されたルールを持っているわけではなかった。」¹⁵と述べ、1867-68年同クラブの幹事長となった C. B. Barrington¹⁶とともにロンドンのブラックヒースフットボールクラブで行われているフットボールのルールを基に、

ルールを成文化した。そして、1868年10月、トリニティカレッジのクラブは、成文化したルールをアイルランドの統一ルールとすることを提案した。これは、ボールをキャッチした時「コール・ア・マーク (call a mark)」と叫んでプレーを中断する。オフサイドの規則の導入。グラウンドからボールを拾いあげることはできないが、ボールを持って走ることを許可する。得点はボールをキックし、クロスバーを越え2本のゴールポストの間を通過したとき認める。相手のスネを蹴る「ハッキング (hacking)」や相手を捕まえる「ホールディング (holding)」、相手の首を絞める「スロットティング (throttling)」は認めないが、相手の足をひっかけてつまづかせる「トリッピング (tripping)」は認めるといったルールだった。¹⁷ トリニティカレッジが提案したルールは、ハッキングを認めないという点が、ラグビー校とのルールとの大きな相違点だった。¹⁸ また、ルールを起草した Barrington は1867年、自身が初めてトリニティカレッジでプレーしたことを思い出し、「フォワードとバックスの区別もなく、全員でボールを追いかけていた。私がラグビー校のようなフルバックとハーフバックを導入した。」と述べている。¹⁹ アイルランドにおいて非常に影響力のあるトリニティカレッジが統一ルールとしてこのルールを提案したことで、サッカー (Association Football) ではなく、ラグビーが近代的なフットボールとして最初に浸透する一因となったと考えることができよう。

トリニティカレッジでのルール制定以降、ラグビー式のフットボールはダブリンやベルファストといった都市部を中心に普及していく。Wanderers (1869年)、Lansdowne (1872年: Irish Champion Athletic Club and Lansdowne Road としても知られていた)、Dungannon (1873年)、Queen's College, Cork (1874年: 1872年に設立との説もある)、Carlow (1873年)、Ballinasloe (1875年) や、Cork FC、Cork Bankers、Arlington、Phoenix、Engineers、Monaghan、Scott's Military Academy、Merrion、Kingstown、Kingstown School、Bray などが新たに生まれた。²⁰ ただし、これらのフットボール活動には参加制限があった。ほとんどの労働者達は、仕事を休み、楽しみのためだけにスポーツをするような余裕はなかった。当時の風潮は、フットボールのフィールドにおいて、階級の壁を取り払おうという傾向はほとんどなく、このフットボールは教育を受けたエリートたちのものだった。それでも、アイルランドにおけるフットボールは地理的に拡大した。つまり、各地でクラブが組織され、対外試合も頻繁に行われるようになった。ベルファストの North of Ireland クラブやダブリンのトリニティカレッジなどのクラブは、その活動の繋がりを国外にも作り上げた。例えば、1871年の12月には West of Scotland をベルファストに迎えたり、1873年にはトリニティカレッジがリバプールに遠征を行ったりしている。こういった交流はやがて、アイルランドとイングランドによる国際試合へと発展していく。²¹

1860年代にフットボールをプレーしていた選手たちの写真を見ると、全員が同じ横縞のシャツ、ソックスで揃えている。ズボンは異なる種類の色のものを履いているようだが、着こなしは全員が一樣である。また、選手達の年齢層が、学生としてはやや老けている顔

ぶれの人物も2、3名見受けられるが、残りの選手は若々しい顔つきであり、若者によってプレーされていたこと、中央の選手が持っているボールは、ほぼ球形であり、サッカーボールよりもやや大きく、バスケットボールほどのサイズのボールを使用していたことがわかる。



写真1 トリニティカレッジのラグビークラブ, 1867 (Neal Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland: Reprint of R M Peter's Football Annual of 1880*, Ulster Historical Foundation, 1999, p. 4 アイルランドで現存する公式フットボールクラブの最も古い写真)

英国のパブリックスクールで誕生した近代フットボールは、その卒業生によって、英国内外に発信され、アイルランドでは、国内のクラブを中心にフットボールは認知されていく。1870年代に入ると、国内のクラブの対外試合だけでなく、代表チームによる試合が行われるようになる。世界最初の国際フットボールの試合は、1871年にロンドンでイングランドとスコットランドによって行われた。この時の英国の代表チームは、その年に誕生したラグビーフットボール連盟 (Rugby Football Union; 以下、RFU) によって組織されたものだった。同様にイングランドとアイルランドの試合が計画されたが、アイルランドには、RFUのような組織がなかった。そこで1874年の12月、トリニティカレッジのメンバーが中心となり、各地の代表的なクラブから代表者を招集し、アイルランドのフットボールを統括する組織を設立することを計画した。同月の14日にアイルランドフットボール連盟 (Irish Football Union; 以下、IFU) が組織された。8クラブの代表者が集まり、うち5クラブはダブリン近郊、残りはアルスターのクラブである Portora、Dungannon、Monaghan だった。²²

アイルランドのフットボールはダブリンとベルファストを中心に各地に普及していった。しかし、1874年の IFU の設立会議には、ベルファストのクラブからの参加者はなく、IFU

にもベルファストのクラブは加盟していない。彼らは自分たちのやり方と名誉を守るため、IFU 設立からわずか一月後、1875年1月、独自にアイルランド北部フットボール連盟 (Northern Football Union of Ireland; 以下、NFUI) を組織した。しかし、それは IFU に対して、全くの抵抗を示すものではなかった。最初のアイルランド代表チームは、IFU と NFUI の二つの組織から選抜された。試合は1875年2月19日にイングランドの Oval で行われ、2ゴールと1トライを奪われ、アイルランドは無得点でイングランドに敗れている。翌年、IFU は NFUI に統一組織を作ることを提案しているが、その接続があまりにも不自由であるという理由で拒否されている。

最初の地域対抗戦は、1875年11月に行われ、アルスターがレンスターに勝利している。²³ ここでのアルスターは、NFUI 選抜、レンスターは IFU 選抜と捉えることができよう。さらに、この地域間の対抗戦は、単に勝敗を競うだけでなく、アイルランド代表を選抜するための意図もあった。²⁴ 12月には、イングランドの代表チームがアイルランドに遠征した。1877年の2月には、スコットランドの代表チームがベルファストに遠征し、以後、このアルスター対レンスターの地域対抗戦、アイルランド対イングランド、アイルランド対スコットランドの国際試合は毎年行われる定期戦となった。²⁵ また、1877年2月5日、Oval でのアイルランド対イングランドの試合は、国際試合史上初めて、1チームの人数を15人にして行った。²⁶



写真2 1877年アイルランド代表 (対イングランド代表) (Edmund Van Esbeck, *One Hundred Years of Irish Rugby*, Gill & Macmillan, 1974, p.22)

IFU は設立当初から、NFUI に対して、アイルランドを代表する一つの組織を設立することを打診していた。IFU は、毎年、総会を開催し、執行部を選出すること、毎年の総会の開催地をベルファスト、ダブリン、南部の都市と輪番で持ち回ること、また、毎年の地域対抗戦も輪番で行うことを提案したが、NFUI は統一組織を設立することに賛成しな

かった。しかし、1878年、IFU がアルスター、レンスター、マンスターそれぞれの地域に支部を設立し、各3人の代表者、計9人の委員によって運営される新たな組織を作る計画を打ち出した。NFUI は当初、この計画にも反対だったが、各地域からの代表者を6人、計18人の委員にすること、マンスターは地域対抗戦でアルスターかレンスターに引き分け或は勝利するまで代表者は4人とするのと修正された案で、合併することとなった。また、この新たな組織 IRFU の年会費は、クラブが1ポンド、学校が10シリングとなった。²⁷ 1879年10月27日、IFU の最後の会議の後、IRFU の規則案が策定された。²⁸

- (1) 支部は、レンスター、マンスター、アルスターで組織し、各地域のクラブの事柄について、運営することとする。
- (2) 連盟 (Union) の目的は、アイルランドにおけるラグビーフットボールのゲームを奨励、育成することであり、地域対抗の試合や国際試合を運営することである。
- (3) 連盟の委員会による年次会議は、ダブリンで開催する。
- (4) 連盟の委員会は3つの地域でそれぞれ選ばれた6名で構成する。それぞれの組織には、会長、2名の副会長と幹事 (Hon. Secretary) と会計 (Hon. Treasurer) をそれぞれ1名ずつ置く。
- (5) クラブの年会費は1ポンドとし、入会費を1ポンド徴収する。IFU または、アイルランドの NFU (Northern Football Union of Ireland のことと考えられる) に加盟していたクラブは免除し、学校のクラブは通常クラブが支払う半額を徴収する。
- (6) 支部の委員会は、連盟の地域に所属するクラブのそれぞれの代表者によって構成する。一人の代表者は、25名全員の或は25名の過半数を代表する。
- (7) 所属する連盟の支部に、最低2/6ペニーの年会費を支払っていない場合、支部の総会における投票権はない。
- (8) 会計の報告と計算書は印刷し、連盟の委員会の総会の前に連盟に所属するクラブに送付する。

アイルランドのフットボールを代表し、統括する組織アイルランドラグビーフットボール連盟 (Irish Rugby Football Union ; 以下、IRFU) の最初の会議が1880年2月5日、ダブリンの Grafton Street, 63で開催された。²⁹ レンスターの William Neville が会長、アルスターの Richard Bell とマンスターの William Goulding の二人が副会長、幹事長にはレンスターの R. M. Peter、会計役にはアルスターの Edwin Hughes が任命された³⁰、執行部は地域のバランスが考慮されたといえよう。

IRFU の当面の目標は、アイルランド代表の強化だった。代表はこれまで7度行ってきた国際試合で、勝利どころか、1度も得点をする事ができなかった。しかし、IRFU によって組織された代表は、1880年に対イングランド戦でアイルランド代表としてトライによって初めて得点を獲得し、翌1881年2月19日にはベルファストの Ormeau でスコットランド

に勝利し、国際大会での初勝利を手にした。³¹ 1882年に、ウェールズと初めての国際試合を行い敗れたが、翌週行われたイングランドとの試合では、両チーム2トライずつを奪い引き分けた。1883/84シーズンには、初めて1シーズンに3つの国と試合をした。アイルランド代表はダブリンでイングランドに敗れ、エジンバラでスコットランドに敗れた。ウェールズとの対戦はカーディフに遠征して行った。しかし、IRFUは財政難のため15名の選手を派遣することができず、2名ウェールズから選手を借りて戦った。結果は、1ドロップゴールと2トライを奪われ敗れた。³²

○サッカー；アソシエーション式フットボール

アイルランドへのサッカー（Association Football）の普及は、ラグビーより遅れたものだった。1878年10月24日、ベルファストのUlster Cricket Groundでスコットランドの2つのクラブQueen's ParkとCaledoniansがデモンストレーションのサッカーの試合を行った。この試合が公式に残るアイルランド行われた最初のアソシエーション式フットボールである。翌年の1879年には、アイルランドで最初のフットボールクラブCliftonville FCがベルファストで結成され、1880年11月18日、ベルファストのQueen's Hotelに3つのベルファストのクラブ（Cliftonville、Knock、Avoniel）が集まり、IFAが設立された。³³ そして、IFAは設立後すぐに、アイルランドで最初のカップ戦アイリッシュカップ（Irish Cup）を開催した。1881年1月10日に6つのクラブによって一回戦が行われた。³⁴ 以後、ラグビーがトリニティカレッジを中心としたダブリン地区からアイルランド各地に広まったのに対して、サッカーはベルファストを起点に国内に広がっていく。

ダブリンでの最初のサッカークラブDublin Association Football Clubは、IFA設立から3年後の1883年11月に組織される。翌年の秋にはダブリンで5つのチームが試合を行うようになる。そのうちの一つは、スコットランドの歩兵の駐屯軍だった。ダブリンのクラブにとって困難だったのは、ダブリン以外のクラブとの対戦相手を探す事だった。ダブリン以外のクラブとの対戦のためにベルファストまで、鉄道による遠征を行った。³⁵ 「ドリブリングゲーム」として知られたサッカーは、ゆっくりとアイルランドに浸透していくことになる。³⁶ IFAに加盟していたクラブ数は、1881年7クラブ、1882年13クラブ、1884年34クラブ、1885年37クラブ、1886年42クラブ、1887年37クラブでその多くはアルスターのクラブだった。³⁷

IFAに設立当初加盟していたクラブは、様々なスポーツや団体からスタートした。例えば、Knock Football Clubは、ラクロスクラブ、Cliftonville ClubはCliftonville Cricket Club、Greenwood Clubはクロスカントリークラブのメンバーによってそれぞれ結成された。また、地方では、地主によってクラブが作られ、育成された。例えば、Co. LondonderryのMoyola Park ClubはMajor Chichesterによって生み出された。彼は、自分の保有する土地をクラブに提供し、遠征してきたチームを自費によってもてなした。1887年、Co.

Roscommon の Castlereagh Club と Co. Westmeath の Athlone Club は英国で教育を受けた地主の息子 Orland Coote によって結成された。こういった地方での地主によるクラブに対する後援は、18世紀から続くアイランドの伝統だった。³⁸

Coote によって生み出された Athlone Club は、トレーニングの時間や入会費、組織の形態のために、初期のメンバーはエリートもしくは富裕層に限定されることになる。トレーニングの時間は月曜の午後3時に行われ、水曜の午後試合が行われた。入会費に5シリングが必要であり、対戦相手を求めてダブリンに遠征することもあり、時間的、経済的な余裕がないと、クラブに加入することはできなかった。地方クラブである Athlone Club は、Athlone に基盤を置いた活動がほとんどで、公式戦に参加することもなかった。個人的なつながりで、交流のため、ダブリンまでの遠征を行うが、それらに関しても公式な試合ではない。³⁹ このように地方において、サッカーは、富裕層における冬のレクリエーションの一つであったと考えられよう。個人的なつながりによって、対戦相手を探す様子などは、統一組織が設立される前の都市部の状況によく似ている。

反対に、都市部では後援がなくても成立するクラブが誕生した。アイランドの主要な二つのクラブは、ベルファストの労働者によって結成された。一つは、1879年にベルファストの蒸留酒製造場の労働者によって結成された Distillery Club、もう一つは、1885年に Ulster Spinning Company's Linfield Mill の労働者によって結成された Linfield Club だった。この二つのクラブは、その所属する組織から物質的な支援を受けていた。例えば、Linfield Club は、サッカーを行う際、工場所有の土地を使用でき、着替えのために食堂の使用を許可されていた。当時の工場の労働者たちによって結成されたクラブにとって、このような援助は珍しいことではなく、ダブリンの Jacobs ビスケット工場や Guinness ビール工場でも、労働者のクラブに対して、同様の援助を行っていた。⁴⁰

以上のように、都市部や地方では、工場や地主などの援助によって、クラブが設立し、運営されていた。それぞれのクラブのメンバーは、職業や居住地域、宗教などがほぼ均質の集団によって形成されていた。例えば、1883年からスタートした Schools Cup には5つの学校が参加し、うち4つはプロテスタント系、1つはカソリック系の学校だった。こういったクラブのメンバーの宗教が均質になる場合が多分にみられた。しかし、それは意図的に生み出されたわけではなく、少なくともアルスター地域においては、近隣地域の人々が集まって作られたクラブは、その住環境の段階で、プロテスタントとカソリックの区分があったからだと考えられよう。さらにクラブの設立過程から考えていくと、例えば1880年の IFA の最初の会議に出席していた Robert Kennedy は Cliftonville FC のメンバーであり、他にも、Cliftonville Cricket Club の幹事、Enfield Rugby Club のメンバーでもあった。付け加えておくと、彼は後に Irish Amateur Athletic Association の役員にもなる。⁴¹ つまり、クラブが意図的に宗教色のあるクラブを設立したのではなく、当時の社会背景において、同じ宗教の人々、あるいは同じ社会的背景を持った人々が集まる環境が整っており、その結果、

クラブの構成員が同じ宗教を信仰するクラブが数多く生み出されたと考えることができよう。今日、グラスゴーにおけるセルティックとレンジャーズのようなカソリックとプロテスタントを背景としたクラブ間の問題⁴²が指摘されるが、少なくとも19世紀後半のアイランドにおけるサッカークラブの構成員の宗教属性は、意図的に作り上げられたのではない。

4. 1879/80シーズンの IRFU 加盟クラブの対外試合について

①クラブの分布

「フットボールクラブの所在地と幹事名簿」と「昨シーズンの報告」から各クラブの所在地についてカウンティ毎に整理する。これらの配置を図1に整理した。その結果、IRFUに加盟しているラグビーフットボールクラブの総数は88クラブで、地域別に分類すると北部アルスター地域に27、東部レンスター地域に40、西部コナート地域に3、南部マンスター地域に13、他にその所在地が不明なクラブが5クラブあった。各地域について、詳細に見ていくと、北部の中心都市ベルファストのある Co. Antrim に14、隣の Co. Armagh に5、レンスター地域の中心都市ダブリンのある Co. Dublin に31、コナート地域は Co. Galway に3クラブ全てが、マンスター地域は Co. Cork に8クラブと、都市部を中心にラグビー

のフットボールクラブが形成されている。

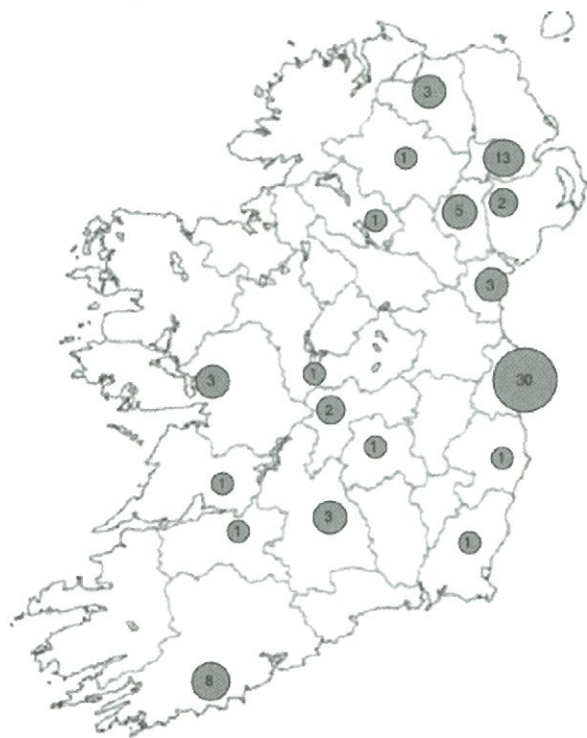


図1. カウンティごとのクラブ分布

②対外試合の日程について

加盟クラブの「昨シーズンの試合結果」から、月別、曜日別の試合数について、表1、月・曜日別対外試合数に整理し、月(図2)と曜日(図3)ごとの試合数の分布をみる。その結果、1879/80シーズンは秋に始まり、春に終わると考えられる。最も早い時期に試合が行われているのは、1879年10月4日 土曜日 に Clontarf Football Club と Kingstown Football Club (Clontarf Football Club は試

合について報告しているが、Kingstown Football Clubは試合について報告していない)、King's HospitalとMountjoy(非加盟)の対戦があった。最も遅い時期に行われた試合は1880年4月8日木曜日に行われたGalway Grammar School ClubとPast(おそらくOBチーム)の対戦が最後だった。試合数はクラブによってばらつきが見られ、リーグ戦のような形式は全く行われていない。ただし、「昨シーズンの報告」には、IRFU以前の北部フットボール連盟(Northern Football Union)時代から行われているスクール・チャレンジ・カップ(School Challenge Cup)が開催されたとの報告があり、「大会」形式で対外試合が行われていることを確認することができる。

月ごとの試合数を表1. 月・曜日別対外試合数からみていくと、全体では11月に最も試合が行われ132試合、続いて2月95試合、3月72試合となる。多くの試合が行われたレンスターとアルスターをみると、レンスターも同様に11月87試合と最も多く、2月53試合、3月47試合となるが、アルスターでは11月39試合、2月33試合、1月23試合となる。

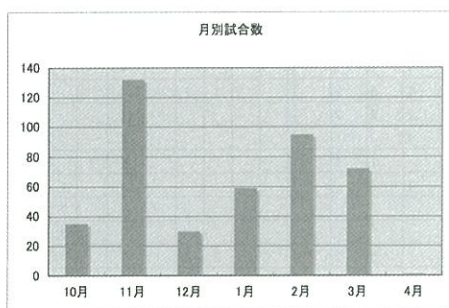


図2. 1879/80シーズンの月別試合数

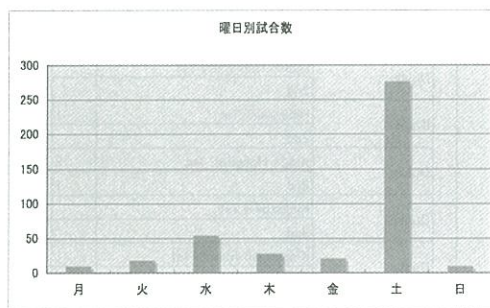


図3. 1879/80シーズンの曜日別試合数

次に曜日ごとの対外試合について、表1からみていく。全体では、土曜が圧倒的に多く276試合が行われている。これは報告のあった全試合の約66パーセントの割合である。地域別に見ていくとレンスターでは土曜日に178試合、全試合の約70パーセント、アルスターでは土曜日に93試合、全試合の約73パーセントとなる。クラブ数の少ないコナートやマンスターでは土曜に試合が集中して行われる傾向がみられなくなる。

③カウンティ外に出るの対外試合について

カウンティ外に出るの対外試合がシーズン中にどの程度行われていたのかについて、「昨シーズンの試合結果」から、クラブの所在地と対外試合を行ったグラウンドの場所について分類し、表3. 対外試合一覧を作成した。全44クラブのうち、カウンティ外に出るの対外試合を行ったクラブは25クラブであり、総数は42試合だった。地域別にみていくと、アルスター地域では、4クラブを除いて、ほとんどのクラブがカウンティ外で試合を行っている。ただし、各クラブともわずか1、2試合であり、積極的にカウンティ外での試合を

表 1. 月・曜日別対外試合数

地域	カウンティ	クラブ名	月							曜日						
			10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	月	火	水	木	金	土	日 ?
アルスター	Antrim	Albion		3	1	3	2					1	1		6	1
	Antrim	Lauriston		2	1		3					1			5	2
	Antrim	Mount Pottinger				2		1							3	
	Antrim	North of Ireland 1st		2	1	4	5	2		1	1				12	
	Antrim	Queen's College (Belfast)		2		2	3	1							8	
	Antrim	Royal Academical Institution (Belfast)	2	5		2	1	1					2	1	8	
	Antrim	Ulster 1st	1	4		1	5	1				1	1		8	
	Antrim	2nd	1	5	3	2	2	1				4	1	1	8	
	Antrim	York Road (Belfast)		1		1	1	1							4	
	Armagh	Armagh	1	5		3	2	1				3	1		8	
	Armagh	Armagh Royal School	1	2	1		2	2				3		2	2	1
	Armagh	Lurgan		2	1	1	3					1			1	5
	Armagh	Portadown			1	1					1		1			
	Derry/Londonderry	Londonderry Academical Institution	1	1	1		1	2						2	4	
	Down	North Down	1	4		1	3	3				1	1		10	
	Fermanagh	Portora Royal School	1	1											2	
	Tyrone	Dungannon Royal School						1							報告無し	
レンスター			9	39	10	23	33	17	0	1	2	15	8	7	93	1
	Dublin	Clontarf 1st	3	4		2	3	1							13	
	Dublin	2nd		5	4	4	2	2							16	1
	Dublin	Cusack's Academy		7	1		3	1		1		1	2		8	
	Dublin	Dublin University 1st		1		1	1	1							4	
	Dublin	2nd		4		1	5	2				1	3	1	7	
	Dublin	Hibernian 1st	1	3		2	2	2							10	
	Dublin	2nd		1		1									2	
	Dublin	King's Hospital 1st	2	2			1	1							5	1
	Dublin	2nd	1	1		1									2	1
	Dublin	Kingstown 1st														7
	Dublin	2nd														7
	Dublin	Kingstown School 1st	1	4			5	2				3	2		7	
	Dublin	2nd	3	2		1	1	1		1	3	1		1	2	
	Dublin	Lansdowne 1st	1	3	1	3	4	2				1	5		8	
	Dublin	2nd	1	5		3	5	5			1	7			10	
	Dublin	Merrion Square Rovers		4								3			1	
	Dublin	Monkstown													報告無し	
	Dublin	Nomads		3	1			1					2	3		
	Dublin	Ordnance Survey	1	1	3	2	2	2							11	
	Dublin	Phoenix 1st													報告無し	
	Dublin	Rathmines School	1	1			2	6							5	5
	Dublin	Santry School	1	5			1	1				1	1		6	
	Dublin	St. Columba's College		5		1	5	1			1	4	1		6	
	Dublin	United Hospitals		1		1		1							3	
	Dublin	Wanderers 1st	4	4	1	4	2	3		1		1		1	15	
	Dublin	2nd	1	3	2	2	4	3			1				14	
	Dublin	Wesley College 1st		6	1							3			3	1
	Dublin	2nd	1	3			1	4		1	2				5	1
	Laois	Portarlinton School	1	4	1		1	3		1	1	1			6	1
	Louth	Dundalk		5	1	2	2	1			1		1	2	7	
	Wexford	North Wexford				1	1								2	
			23	87	16	31	53	47	0	5	10	27	17	8	178	9
コナート	Galway	Galway Grammar School		1				3	1	1	1	2	1			
				1				3	1	1	1	2	1			
マンスタ	Cork	Cork	2	4	2	2	3	3		2	1	4	1	5	3	
	Cork	Knight's School(Co. Cork)													報告無し	
	Cork	Queen's College (Cork)			1	2	2	1		1	1	2	1	1		
	Cork	Queenstown					1				1					
	Tipperary	Clanwilliam (Co. Tipperary)	1	1		1		1				4				
マンスタ		Clanwilliam Junior			1		3				2				2	
			3	5	4	5	9	5	0	3	5	10	2	6	5	0
		総計	35	132	30	59	95	72	1	10	18	54	28	21	276	10

行っているわけではない。North of Ireland F. C. の 1st XV（ファーストフィフティーン）が4試合、カウンティ外で対外試合を行っており、1879/80シーズン最も多くカウンティ外での対外試合を行ったクラブである。レンスター地域では、約半数のクラブがカウンティ外で対外試合を行っている。試合数は、アルスター地域と同様1、2試合がほとんどである。

表2. 対外試合数一覧（カウンティ内、カウンティ外）

地域	カウンティ	クラブ名	対外試合数	カウンティ内の試合数	カウンティ外の試合数
アルスター	Antrim	Albion	9	9	0
	Antrim	Lauriston	8	7	1
	Antrim	Mount Pottinger	3	3	0
	Antrim	North of Ireland 1st	14	10	4
	Antrim	Queen's College (Belfast)	8	8	0
	Antrim	Royal Academical Institution (Belfast)	11	10	1
	Antrim	Ulster 1st	10	8	2
	Antrim	2nd	14	13	1
	Antrim	York Road (Belfast)	4	3	1
	Armagh	Armagh	12	10	2
	Armagh	Armagh Royal School	8	6	2
	Armagh	Lurgan	7	5	2
	Armagh	Portadown	2	1	1
	Derry/Londonderry	Londonderry Academical Institution	6(2)	3	1
	Down	North Down	12	8	4
	Fermanagh	Portora Royal School	2	1	1
	Tyrone	Dungannon Royal School	1	1	0
レンスター	Dublin	Clontarf 1st	13	13	0
	Dublin	2nd	17	17	0
	Dublin	Cusack's Academy	12	12	0
	Dublin	Dublin University 1st	4	4	0
	Dublin	2nd	12	9	3
	Dublin	Hibernian 1st	10	10	0
	Dublin	2nd	2	2	0
	Dublin	King's Hospital 1st	6	6	0
	Dublin	2nd	3	3	0
	Dublin	Kingstown 1st	7	6	1
	Dublin	2nd	7	7	0
	Dublin	Kingstown School 1st	12	11	1
	Dublin	2nd	8	8	0
	Dublin	Lansdowne 1st	14	13	1
	Dublin	2nd	19	17	2
	Dublin	Merrion Square Rovers	4	4	0
	Dublin	Monkstown	4	4	0
	Dublin	Nomads	5(1)	3	1
	Dublin	Ordnance Survey	11	11	0
	Dublin	Phoenix 1st	11	10	1
	Dublin	Rathmines School	10	10	0
	Dublin	Santry School	8	7	1
	Dublin	St. Columba's College	12	12	0
	Dublin	United Hospitals	3	3	0
	Dublin	Wanderers 1st	18	17	1
	Dublin	2nd	15	14	1
	Dublin	Wesley College 1st	7	7	0
	Dublin	2nd	9	9	0
	Laois	Portarlington School	10(1)	9	0
	Louth	Dundalk	11	9	2
	Wexford	North Wexford	2	1	1
コナート	Galway	Galway Grammar School	5	5	0
マンスター	Cork	Cork	16	15	1
	Cork	Knight's School(Co. Cork)	2	2	0
	Cork	Queen's College (Cork)	6	5	1
	Cork	Queenstown	1	1	0
	Tipperary	Clanwilliam (Co. Tipperary)	4	3	1
		Clanwilliam Junior	4	4	0

()内の数値はグラウンドの所在地が確認できず、カウンティが特定できなかった数。

る。Co. Laois、Co. Louth、Co.

Wexford のクラブに関しても、

多くのクラブがある Co. Dublin

に遠征するわけではなく、ほと

んどの対外試合を所属するカウ

ンティ内で行っている。コナー

ト地域は、もともと3クラブの

加盟しか確認できず、「昨シー

ズンの結果一覧」は Galway

Grammar School からの報告が

唯一ある。Galway Grammar

School は5試合の対外試合を

行ったが、その全てが County

内での試合である。マンスター

地域では、Cork F. C.、Queen's

College (Cork)、Clanwilliam F.

C. が各1試合、カウンティ外

で対外試合を行っているが、残

りのクラブはカウンティ内で対

外試合を行っている。以上のこ

とから、アルスター地域は、各

クラブがカウンティ外に出たの

対外試合を行っているものの、

その他の地域においては、ほと

んどがカウンティ内での対外試

合に留まっているといえよう。

ただし、レンスター地域におい

ても、Dublin University や

Lansdowne といった古くからあ

るクラブは、他のクラブより多

くの対外試合を行っている。

④各クラブからの対戦報告

「昨シーズンの報告」から、対外試合に関して書かれた部分を訳出し一覧にした(表3)。本研究は、IRFU 加盟クラブの対外試合について分析を行うため、報告に書かれた試合内容などについては省略した。「昨シーズンの報告」は、44クラブに関して掲載されているが、全てがクラブからの報告ではなく、編集者によって、書かれた報告や補足された報告があった。主な内容は、1879/80シーズンの結果と反省が書かれている。

試合が行われた日程について、報告には、対外試合の中止になった理由を推測できる記事が見られた。例えば、天候により中止になった事例として、「当初予定していた55試合から、霜(frost)やその他避けられない事情のため、22試合が中止となった(Wanderers)」や「シーズン後半の霜はフットボールフィールドで、どのチームにも有害なものだった。1月から始まり、2月いっぱいまで、霜に覆われたため、試合が延期になったり中止になった(Nomads F. C.)」、「Limerick と Cork への遠征をクリスマス休暇に計画していたが、天候のために中止となった(Lansdowne F. C.)」などが見られる。55試合予定していたが、22試合中止となった Wanderers の例に見られるように、ひどい天候でなくても、試合を中止したり、延期しているようである。他の理由で中止になった事例として、「5試合のうち3試合は霜のため、残り2試合は相手チームが集まらなかったため行われなかった(North of Ireland F. C.)」や「Dundalk への試合を予定していたが、11名しか集まらなかった(Armagh F. C.)」などのように、メンバーが集まらなかったため中止となっている。おそらく「対戦相手の都合のため中止になった(Lansdowne F. C.)」という記述も、メンバー不足を示すと考えられる。以上のことから、12月～2月は天候により、当初予定されていたよりも試合が実施できなかったことがわかる。つまり、②対外試合が行われた日程で示した月別の試合数は実施数であることから、おそらく、12月～2月にかけて、より多くの試合が予定されていたと考えられる。

次にカウンティ外に出ての対外試合に関する記事を見る。③カウンティ外に出ての対外試合で指摘したように、ほとんどのクラブがシーズンを通して、1、2試合程度行うのみにとどまっている。しかし、前述の Lansdowne F. C. や、Clanwilliam F. C. や Ennis College F. C. のように、当初、カウンティ外に出ての対外試合を計画していたが、天候などの理由により中止となった事例がみられた。このように、カウンティ外に出ての対外試合を計画し、またそれを報告することで、自分たちの活動をアピールしている様子がわかる。また、「アイルランドの鉄道会社はフットボールチームが遠征するための便宜をはかってくれる(Londonderry Academical Institution F. C.)」からは、カウンティ外での対外試合の移動手段として鉄道を利用していることがわかる。他にも、「クラブにとっての問題は地方クラブの不足である。半径50マイル以内には、Grammar School Galway を除いて1つのクラブもない。また、鉄道を利用したとしても遠回りになり、2倍の距離になってしまう(Queen's College, Galway)」の記述から、一般的な主要な対外試合は遠征することよりも、近隣の

表 3. クラブ別昨シーズンの報告概要

Albion F. C.	対外試合は試合で4勝0敗1分け、North of Ireland Football Union主催のSchools Challenge Cupで勝利。 クラブにとって2年目のシーズンだった。78/79シーズンは5勝1敗1分け、79/80シーズンは6勝2敗3分け、あと1試合は試合の途中で終了。11月8日にDundakへの試合を予定していたが、11名しか集まらなかったためである。11月29日の試合の後、ホームグラウンドであるThe Mallは霧のため試合ができなかった。3月13日の試合でシーズンは終了するが、Co. Armaghの代表チームでNRFC 1st XVと対戦した。Armagh F. C.からは2名の選手が選抜された。
Armagh F. C.	1879年 Northern Football Union によって設立された Schools Challenge Cup のうち 1876 年、1877 年、1879 年、1880 年で勝利した。一詳細な対外試合結果-3月12日と20日にArmagh Royal School 主催の勝ち抜き戦を開催しており、その大会で優勝している。
Armagh Royal School F. C.	内容は、西部地域にクラブを設立したことを賞賛するとともに、近い将来、適度な距離に對戦できるクラブができるだろう。(編集者)
Ballinasloe F. C.	かつて有名だった。クラブが解散し、プレイヤーが近くのクラブに移った。とを述べている。再結成されると、アイルランドを代表するクラブになるだろう(編集者)
Blackrock (Co. Dublin) F. C.	1879年11月1日と2日フットボールの未経験者たちで設立されたクラブである。7勝0敗1分け。
Carrickfergus F. C.	78/80シーズンに設立されたクラブである。多くの選手がフットボール未経験者である。-対外試合の結果-Waterford T. C.やThe Abbey F. C. Limerickとの試合が計画されたが行われなかった。Juniorクラブがいじり結果を残しており、彼らが加える次のシーズンはが楽しみである。
Clanwilliam F. C.	1st XV 4年目のシーズンであり、Dublinのフットボール界を牽引するクラブである。2nd XV 詳細な記録は無い。
Clontarf F. C.	今シーズン、南部での成績は非常に良かった。Limerickを除いて、Cork周辺にクラブは存在しない。各対外試合の概要-St. Stephen's Day 12/26にDublinからPhoenix F. C. が訪れて試合をした。LeinsterのUsterとの定期戦が霧のため開催できなかったことがシーズンの最も残念な出来事である。
Cork F. C.	今年の10月に結成され、クラブメンバー40人のうち、40人が現行員である。Cork ClubやQueen's Collegeと試合を行ったが勝つ事が出来なかった。
Cork Bankers F. C.	それぞれ対外試合に対してのレビュー。3月17日のSt. Patrick's Dayには、5つの学校が(Santry School)に集まり、試合を行った。ただし、この試合については、シーズンの報告には載せていない。
Cusack's Academy F. C.	1st XVと2nd XVの対外試合の概要。place kick コンテストとdrop kick コンテストを開催した。
Dublin University F. C.	11試合の対外試合を行ったほか7試合計画していたが、霧やその他の理由のため試合が行われなかった。今シーズンの最も印象に残っている事は、DublinとBelfastへの遠征である。-対外試合の結果の概要-
Dundak F. C.	霧と雪のためにクリスマス以前に試合を行うことは出来なかった。対外試合はFoyle Collegeとの試合だけだった。Armagh Royal Schoolが来る予定だったが、彼らの事情のため、試合は行われなかった。去るがなければ、次のシーズンには少し試合を行いましょう。
Dungannon Royal School F. C.	今シーズン、ひびき響いた思いがけない出来事が続いたため、一試合も対外試合を行う事はできなかった。しかし、我々は1週間3度の練習を行った。我々はLimerick F. C.、Queen's College、Galway、Galway Grammar School、Midleton CollegeとEnnis Town F. C.との試合を計画していた。
Ennis College F. C.	今シーズン行った5試合の対外試合の結果について。
Galway Grammar School F. C.	クラブは1878年に結成されたが、そのメンバーは1874 75シーズンにPhoenix Clubで活躍したメンバーだった。1878 9シーズンの対戦成績は7勝4分4敗だった。今シーズン1st XVは7勝2分け敗、2nd XVはメンバー募集中であり、今シーズンはClontarf 2nd XVと試合しただけで、いずれも負けている。本クラブはHibernian Schoolの近くにグラウンドやメンバーの住居があり、Hibernian Schoolと試合している。そこがわかっていない。ただし、クラブは準備中である。
Hibernian F. C.	今シーズンは1st XVと2nd XV合計で試合中3敗であり、良いシーズンだったといえる。2ndチームは2勝1敗だった。翌シーズン、我々のクラブはより良くなり、より多くの試合をこなし、多くの新たな友人と出会うことを約束する。
King's Hospital F. C.	クラブからの報告はない(編集者)
Kingston F. C.	今シーズンの最初の1st XVは強く、最初の2試合に敗れたが、数人の良い選手を補強した結果、クラブは強くなった。2nd XVは、最初の試合に敗れたものの、その後の試合で2ndチームの中で最も強いことを示した。12月に計画された試合全が霧のため延期となった。
King's School F. C.	今シーズンはCork F. C.と2試合行ったのみである。
Lansdowne F. C.	クラブには50人のメンバーがあり、24人が今シーズンに加わった。1st XVは、6勝3敗3分け、2nd XVは5勝2敗2分け、12試合が霧と雨のために中止となり、10試合は対戦相手の都合で中止になった。今シーズンは試合が手前まで進んでいて、1st XVはLimerickとCorkの遠征をクリスマス後に計画していたが、天候のため中止になった。今シーズンは、最高のクラブになること、Dublin近畿でも素晴らしいレッキングチームを作ること、10月1日から3月31日まで「Lansdowne Roadのアスレチックグラウンドで行われる全てのスポーツ大会に無料で参加できる資格を与えること、Interprovincial or Internationalの試合をL. F. C.のメンバーが参加する、Dublinで開催することが必要だろう。
Lauriston F. C. Belfast	報告を印刷しに追加する時間がなかった(編集者)
Ledwith Medical School F. C.	連絡がしにくくはなれず遠征はない(編集者)
Leondensy Academy Institution F. C.	本クラブはアイルランドの北西部で唯一のスクールクラブである。[アイルランドの鉄道会社はフットボールチームが遠征するための便宜をはかってくれる。例えば、往復のうちの片道チケットあたり、10人分のチケットは20人分だったが、かれは自分たちの時間を短く、義務を果たした。良いシーズンとなった。Belfastと近隣の素晴らしいクラブとの試合を計画していたが、少ない数の試合が行われなかった。クラブにとって、グラウンドの選択はもう一つの懸念事項だった。観客にも選手にも良いとは言えないグラウンドで、水はけが悪く試合が束の間で終わってしまうグラウンドではなかった。執行部には、この不平を解消して欲しい。しかし、このグラウンドを使用させてくれたMr. Harwinには、非常に感謝している。今シーズンは多くの試合が中止となったため、1試合しかできなかった。3勝0敗1分けだった。
Lurgan F. C.	今シーズンに結成されたクラブは、連年のグラウンドを借りたことができなかった。今シーズンは4試合を行ったが、全てに敗れた。その数試合で予定されたが、様々な理由のために延期された。[Morktownクラブが活発にならなかった理由として、出席する予定のメンバーが選られ、欠席したため、試合を数人に数人少ない状態で行ったことによる。] (編集者)
Morktown F. C. (Co. Dublin)	1878年にクラブに設立された。1879年にクラブグラウンドが作られたが、水はけの悪さのため、時折使用できないことがあった。(編集者)
Mount Pottinger F. C.	今シーズン行った各3試合の概要。
Newtownards F. C.	今シーズン試合を行わなかった。
Nomads F. C.	シーズン後半はフットボールフィールドで、どのチームにも有害なものだった。1月から始まり、2月いっぱいまで、霧に覆われたため、試合が延期になり、中止になった。-対外試合の各試合の概要-
North Down F. C.	今シーズンは12試合を行い、4勝0敗だった。我々のクラブは今シーズンが最初のシーズンであり、この結果には満足している。しかし、3人、またはそれ以上の人数が少ない試合を何試合か行い、その試合に負けが多数である。対外試合の概要、試合を終る前に、フィールドの奥を我々に無料で貸してくれたAndrew 夫妻の好意はクラブに代わって感謝し上げる。
North of Ireland F. C.	1st XVは10試合、2nd XVは6試合の計16試合を計画した。昨シーズンよりも10試合増えた。結果的に1st XVは14試合を行い、7勝4敗3分けだった。5試合の内3試合は霧のため、残り2試合は相手チームが暑くなったため行われなかった。2nd XVは10試合を行い、14勝1敗3分けだった。英国からの遠征クラブも含めた対外試合合計の概要。
North Wexford F. C.	1880年の1月にCo. Wexfordの最初のクラブとして結成された。[来シーズンは、3クラブがCo. Wexfordで結成される事を期待している。] (編集者)
Ordnance Survey F. C.	今シーズンは7勝4敗で、他に4試合が霧や雨のための試合が相手の理由のため試合が行われなかった。Ordnance Surveyは全ての種類のスポーツが活発だった。Gymnasiumやクリケット、フットボール、アスレチッククラブが現在も活動を行っている。
Phoenix F. C.	1878/79シーズンに設立された若いクラブは、都市のクラブとして最も成功を収めたクラブである。
Portadown F. C.	本クラブは今シーズン結成され、メンバーの多くがフットボールをプレーしたことがなく、ルールもわからない状態だった。他に数試合予定していたが、天候のため、行われなかった。
Portlerrington School F. C.	クリスマスまでの対外試合はPhoenixとの引き分けを除いて、全て敗れた。クリスマス後、数人の選手が抜け去った。
Portora Royal School F. C.	今シーズンは2試合を行ったという報告のみがあった(編集者)
Queenstown F. C.	今シーズンは全ての試合で成功を収めた。我々のクラブは、これまで良い選手を有るCork F. C.に選手を送り込んでいた。
Queen's College Belfast F. C.	1st XVは今シーズン通年より少ない試合だった。2nd XVは近隣の様々なクラブとの試合を行った。
Queen's College Cork F. C.	今シーズンは対戦相手より良い試合を行なった良いシーズンだった。試合の概要は書き残していない。Masterの代表チームとならなかったことが今シーズン唯一の不満である。[Q. C.は関連したUnionを代表するクラブであり、クラブの経費はIRFUの経費とよく似合うクラブである。] (編集者)
Queen's College Galway F. C.	クラブにとっての問題は地元のクラブの不足である。半徑50マイル以内には、Grammar School、Galwayを除いて1つのクラブもない。また、鉄道を用いたとしても遠回りになり、2倍の距離になってしまった。[St. Columba's College Medical、Visual Arts、Engineering and Lawは2試合の対外試合を行った。対外試合はGrammar Schoolとであり、2試合とも勝利した。]
Rathmines School F. C.	今シーズンは1st XVの多くのメンバーが、病気や他の理由のためプレーできないことがあり、満足のできるシーズンとは言えない。1st XVがプレーできるのは、Santry School F. C.とKingstown School F. C.の試合だけである。
Royal Academical Institution F. C.	本クラブは1月1日にシーズンを終了した。かなり遅い5勝0敗1分けだった。今シーズン中に主要なメンバーが数人怪我をしたことが残念である。本クラブはIrish Football Unionの北部支部によって「Uster」の学校のために毎年行われるSchools Challenge Cupに参加した。その時、対外試合の概要。
Santry School F. C.	本クラブの最初の試合は10月1日に学校内で行われ、役員、委員会の組織、ルールも制定できなかった。シーズン中、学生達はクラブに興味を持ち、そのため、練習試合に多くのメンバーが参加した。8試合を行い、そのうち5試合で勝利、2試合は引き分けだった。多くの試合を予定していたが、主に天候のため開催することができなかった。今シーズンは3月18日に終了した。
St. Columba's College F. C.	雨や霧がひどかったにしろ、今シーズンは成功だった。残念なことは、フットボールグラウンドの休養だった。学校は山の麓にあり、大きなグラウンドを持つ事は不可能である。我々のグラウンドは、雨が降ると水が溜まり、ドリンの底になる。翌シーズンが始まるまでには、改善しようと考えている。今シーズン、我々はこれまでより多くの10試合の対外試合を行った。[St. Columba's Collegeは15人用の固定式のグラウンドだが、Dublinのクラブと試合を頻繁に行い、プレーのスタイルも向上している。Rathminesや他のクラブは非常に良いもので、Reverend Warden地区のホストタリヤは有名であるように思う。] (編集者)
Uster F. C.	Uster F. C.によって今シーズンは、今後のクラブの発展の上で成功と見えよう。今シーズン、34試合が計画されたが、霧やその他の理由のため10試合が中止となり、24試合を行った。1st XVは10試合のうち、6試合で勝利、4試合に勝利した。2nd XVは14試合を行い、14試合に勝利、1試合に勝利、1試合に引き分けだった。
United Hospitals F. C.	78/80シーズンは成功とは言えないが、我々は、2年の間で今より良いチームになろうと思っている。今シーズンはクラブがこれまで2年目のシーズンであり、小さな問題については何も言わない。ただし、Londonの病院、クラブによって運営されるチャレンジャークラブのようなものが存在すれば、我々にとって利益になるだろう。選手たちの試合の機会も増えるだろう。今シーズン最初の試合は79年1月8日、County Dublinと行い、そこで観衆の人達にはDublin Irish Sunday Fundに寄附した。-対外試合の各試合の概要-
Wanderers F. C.	Wanderers F. C.の今シーズンは、シーズン開始から終了まで、Dublinのフットボール界で積極的に活動した。おそくアイルランドの他のクラブより、最も良い試合の報告書を書けるだろう。しかし、当初予定していた試合から、霧やその他の理由で行われなかった試合の、実施は3試合のみだった。Wanderersは、良い選手がプレーできるような環境に、毎週定期、定期的に2試合を行った。Wanderersは二数年、Clyde Roadグラウンドを使用していたが、今シーズンのクリスマス以後、旧作のためグラウンドが使用できなかった。クリスマス後は、L. G. A. C.のLansdowne Road/Lansdowne F. C.と共用した。-対外試合の概要、79年11月28日、Ormeauに遠征してのLeinster v Usterの試合ではWanderersのメンバーが10人以上プレーしており、常駐したメンバーとWindsor F. C. (Belfast)と対戦した。残念だったのが、この試合に予定されていたGlasgow AcademicalsとSanbury Acad. Club、Scotlandsの試合が霧のため行われなかったことである。
Wanderers F. C.	今シーズンはほとんど試合を行わなかった。対外試合の概要、後半シーズンのSanbury Clubは公式な対外試合を行わなかった。しかし、練習は継続していた。
Wesley College F. C.	今シーズンは、Northern Counties Railwayの敷人によって始まったが、すでに30名を超えるようになった。しかし、新たに加わったメンバーはゲームに関してはある程度であったため、多くの試合をするのではなく、自分たちで練習を行った。今シーズンは数試合を行ったのみであるが、翌シーズンは多くの試合をこなしたい。
York Road, Belfast, F. C.	

クラブとの対外試合であったことが推測できる。

その他、対外試合に関することでは、「3月17日のセント・パトリックス祭に5つの学校が Santry School に集まり、交流試合を行った (Cusack's Academy F. C.)」や「レンスターやアルスターとの定期戦が霜のため開催されなかった (Cork F. C.)」との記述からは、複数クラブが集まっての交流戦や定期戦が存在していたことが推測できる。また、「1876年に Northern Football Union によって設立された Schools Challenge Cup のうち、1876年、1877年、1879年、1880年で勝利した。 —中略— 3月12日と20日に Armagh Royal School 主催の勝ち抜き戦を開催し、その大会で優勝している (Armagh Royal School F. C.)」のように、これまで行われてきたカップ戦や、クラブによって運営された勝ち抜き戦が存在したことがわかる。しかしながら、報告の中には、IRFU が運営するリーグ戦やカップ戦に関する記載はまったくみられなかった。

5. おわりに

本研究では、1880年のアイルランドにおける IRFU 加盟クラブの対外試合の実施状況の分析を行った。その結果明らかになったのは、次のとおりである。

- (1) IRFU の加盟クラブはダブリン、ベルファスト、コークといった都市部に集中していた。
- (2) フットボールシーズンは、おおよそ10月から翌年の3月いっぱいであり、特に都市部においては、土曜日に試合が実施される傾向にあった。
- (3) アルスター地域のクラブは、カウンティ外での対外試合が他地域に比べて多い傾向がある。また、Dublin University や Lansdowne といった古くからあるクラブも同様の傾向がある。
- (4) 試合は霜のような天候や、相手チームが集まらないなどの理由で、しばしば中止や延期となる。
- (5) 複数のクラブが集まって行う交流戦や、定期戦、カップ戦は行われていたものの、IRFU によって運営されたリーグ戦やカップ戦はない。

以上のことから、対外試合の実施状況からは、統括組織である IRFU の初年度において、IRFU が運営する試合や大会はみとめられない。本研究では、対外試合の実施状況から、そのスポーツ活動の一端を明らかにしようと試みた。そのため、*Irish Football Annual* に記載されている統一ルールや国際大会、地域大会の報告に関する言及は行わなかった。アイルランドにおける近代フットボールの伝播の過程を明らかにするために、今回扱わなかった点を明らかにし、英国の他の地域との比較を行うことが、今後の課題である。

- 1 山本浩、『フットボールの文化史』、ちくま新書、1998、p.25
- 2 2009年現在、FIFA (国際サッカー協会) 加盟国は208の国と地域 (FIFA 公式ホームページ；<http://www.fifa.com/aboutfifa/federation/associations.html>、2009年10月23日閲覧)、IRB (国際ラグビーボード) には様々な国と地域から97の協会 (IRB 公式ホームページ；<http://www.irb.com/aboutirb/organisation/index.html>、2009年10月23日閲覧) が加盟している。；サッカーの場合、「その最初の局面は、主としてイギリスの軍人、外交関係者、貿易商人、宣教師、教師らによって成し遂げられた」。(アレン・グットマン 谷川稔・石井昌幸・池田恵子・石井芳枝訳『スポーツと帝国』、昭和堂、1997、p.84)
- 3 Neal Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland: Reprint of R M Peter's Football Annual of 1880*, Ulster Historical Foundation, 1999, p. 7
- 4 Edmund Van Esbeck, *The Story of Irish Rugby*, Hutchinson, 1986；Edmund Van Esbeck, *One Hundred Years of Irish Rugby*, Gill & Macmillan, 1974
- 5 Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland*；Neal Garnham, *Association Football and Society in Pre-Partition Ireland*, Ulster Historical Foundation, 2004
- 6 Neal Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland*, pp.35－170
- 7 *ibid.*, pp.39－41
- 8 Esbeck, *The Story of Irish Rugby*, p.13
- 9 Trevor West, *Dublin University Football Club, 1854－2004: 150 Years of Trinity Rugby*, Wordwell, 2003, p. 12
- 10 また、カレッジタイム (College Time) とは、実際のダブリンで用いられていた時間よりも15分遅らせた時間である。
- 11 Esbeck, *The Story of Irish Rugby*, p.13
- 12 Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland*, p. 3 ここでの Wanderers は現在の Wanderers (1869年設立) とは異なるトリニティカレッジの卒業生によって結成されたクラブである：Esbeck, *The Story of Irish Rugby*, p.13
- 13 West, *op.cit.*, p.13
- 14 Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland*, p. 3
- 15 Esbeck, *The Story of Irish Rugby*, p.14
- 16 West, *op.cit.*, p.15
- 17 Esbeck, *The Story of Irish Rugby*, p.14
- 18 Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland*, p. 4
- 19 West, *op.cit.*, p.17
- 20 *ibid.*, p.19
- 21 Esbeck, *The Story of Irish Rugby*, p.15
- 22 Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland*, p. 5
- 23 *ibid.*, p. 5, 6
- 24 *ibid.*, p. 6
- 25 J. C. Conroy, *Rugby in Leinster 1879－1979*, Leinster Branch I.R.F.U. p. 9
- 26 Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland*, p. 6
- 27 Marshall Rev F and Leonard Tosswill, *Football the Rugby Union Game*, Cassell, 1925, p.109
- 28 Conroy, *op.cit.*, p. 9
- 29 *ibid.*, p.10

- 29 Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland*, p. 7
- 30 Marshall Rev F and Leonard Tosswill, op.cit., p.212
- 31 Esbeck, *The Story of Irish Rugby*, p.38, 39
- 32 ibid., p.42-44
- 33 Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland*, p. 7
- 34 Malcolm Brodie, *100 Years of Irish Football*, Blackstaff Press, 1980, p. 2
- 35 Garnham, *Association Football and Society in Pre-Partition Ireland*, p. 5, 6
- 36 Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland*, p. 8
- 37 Garnham, *Association Football and Society in Pre-Partition Ireland*, p.43
- 38 ibid., p.45-47 例えば、Coote はサッカーだけでなく、地方のテニスやホッケー、漕艇、ヨット、サイクリング、狩りなどに関する資料にも名を連ねている。：Tom Hunt, *Sport And Society In Victorian Ireland : The Case of Westmeath*, Cork University Press, 2008, p.171
- 39 Hunt, op.cit., pp.171-173
- 40 Garnham, *Association Football and Society in Pre-Partition Ireland*, p.47, 48
- 41 Garnham, *Origins and Development of Football in Ireland*, p.66
- 42 サイモン・クーパー 柳下毅一郎訳『サッカーの敵』白水社、2001、pp.123-146